こども青少年・教育委員会資料
平成 22 年 5 月 17 日
教育委員会事務局

横浜市立中高一貫教育校　基本計画（概要版）

1　設置の基本的枠組み

(1)　設置場所：**横浜市立南高等学校**
(2)　設置形態：**併設型の中高一貫教育校**
(3)　開校年度：**平成 24 年度**
(4)　学校規模：**附属中学校は、１学年４学級 160 人定員**
南高等学校は、１学年５学級 200 人定員
（高等学校の入学者選抜を経て入学する生徒 40 人を含む）

2　教育方針

《教育理念》
知性・自主自立・創造

《教育目標》
(1)　学びへの飽くなき探求心を持つ人材の育成
(2)　自ら考え、自ら行動する力の育成
(3)　未来を切り拓く力の育成

《目指す学校像》
(1) ６年間の一貫教育で健全な心身をはぐくむ学校
(2) 質の高い学習により、高い学力を習得できる学校
(3) 生徒が互いに切磋琢磨し、常に活気に溢れている学校
(4) 国際社会で活躍するリーダーの育成を目指す学校

3　教育課程編成の基本方針

(1)　豊かな人間性の育成

ア　主体性、創造性、リーダーシップを持って、**たくましく生きる力**を育てるとともに、協調性や思いやりを兼ね備えた人間を育てる。

イ　充実した学習活動で養われた豊かな知識と教養を基盤とし、さらに特別活動や部活動により徳性を磨くことで**人格の完成**を目指す。

ウ　中学校及び高等学校における教育活動全般に効果が生じるよう、**計画的かつ継続的な６年間のキャリア教育**を展開する。

(2)　「高い学力」の習得

ア　豊富な学習量により生徒一人ひとりの学習効果の向上を図り、全教科で**高い学力の習得**を目指す。

イ　６年間を**「養成期」、「伸長期」、「発展期」**の３区分に分け、入学直後から大学進学を意識した教育を実践する。

（裏面あり）

４　附属中学校の入学者の決定

１　志願資格

小学校等を卒業又は修了する見込みの者で、保護者とともに県内に住所を有する者とする。

２　学区

横浜市内全域とする。ただし、学区外入学許可限度数は、別に定める割合の範囲内とする。

３　選考方法

適性検査及び調査書等により、横浜市立中高一貫教育校で学習をするために求められる資質、能力などの基礎的な力を測るとともに、学ぶ意欲や基礎的な学習の状況を見て総合的に選考し、入学者を決定する。

(1)　適性検査（例）

適性検査Ⅰ：文章や資料等を読み取り、課題を理解し、解決に向けて筋道を立てて考え、表現する力を測る。

適性検査Ⅱ：数理的な問題や自然科学的な問題等を理解し、解決に向けて筋道を立てて考え、表現する力を測る。

(2)　調査書

今後の学習につながる基礎的学習の状況を見る。

【参考】

入学定員

年　度	南高等学校	附属中学校
平成 23 年度	320 人（８学級） 現在、中学校３年生	―
平成 24 年度	200 人（５学級） 現在、中学校２年生	**160 人（４学級） 現在、小学校５年生**
平成 25 年度	200 人（５学級） 現在、中学校１年生	160 人（４学級） 現在、小学校４年生
平成 26 年度	200 人（５学級） 現在、小学校６年生	160 人（４学級） 現在、小学校３年生
平成 27 年度	**40 人（１学級） 現在、小学校５年生**	160 人（４学級） 現在、小学校２年生

学級数の推移

年　度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
南高等学校	３年	8	8	8	5	5	5	**5**
	２年	8	8	5	5	5	**5**	**5**
	１年	8	5	5	5	**4＋1**	**4＋1**	**4＋1**
附属中学校	３年	―	―	―	**4**	**4**	**4**	**4**
	２年	―	―	**4**	**4**	**4**	**4**	**4**
	１年	―	**4**	**4**	**4**	**4**	**4**	**4**
総学級数		２４	２５	２６	２７	２７	２７	２７

横浜市立中高一貫教育校

基本計画

平成２２年５月

横浜市教育委員会

目　　次

第１　横浜市立中高一貫教育校の設置

１　設置の目的 …… １

２　設置の基本的枠組み

(1)　設置場所

(2)　設置形態

(3)　開校年度

(4)　学校規模

(5)　高等学校の課程、学科

第２　南高等学校・附属中学校の教育方針

教育理念 …… ２

教育目標

目指す学校像

第３　教育課程等

１　教育課程編成の基本方針 …… ３

２　教育課程 …… ５

第４　附属中学校の入学者の決定

１　志願資格 …… ８

２　学区

３　選考方法

４　入学定員

＊　南高等学校の入学定員

第５　施設・設備の整備、人事配置

１　施設・設備の整備の考え方 …… 10

２　施設の現況

３　施設の基本計画

４　人事配置・教職員研修の考え方

第１　横浜市立中高一貫教育校の設置

１　設置の目的

横浜市では、より魅力ある市立高等学校を目指して、横浜商業高等学校の国際学科の設置や横浜サイエンスフロンティア高等学校の開校など、様々な高校改革を進めている。一方全国各地では、平成１０年の学校教育法の一部改正で中高一貫教育校の設置が可能となり、既存の学校の改編や新設による開校が進んでいる。

こうした状況の中、本市においても、現行の市立中学校、市立高等学校に加え、市立中高一貫教育校という新たな選択肢を市民に提供するために設置することとした。そして、**６年間の安定した環境**の中で、**計画的・継続的な教育活動**を展開し、**横浜はもとより国際社会で活躍する志の高いリーダーとなる人材の育成**を目指す。

２　設置の基本的枠組み

(1)　設置場所

横浜市立南高等学校（単位制による全日制の課程普通科）を改編し、同校（横浜市港南区東永谷 2-1-1）の敷地内に設置する。

(2)　設置形態

併設型の中高一貫教育校とする。

(3)　開校年度

平成 24 年度開校（附属中学校１年生受け入れ開始）とする。

(4)　学校規模

附属中学校

１学年４学級 160 人定員（３学年全体で 12 学級 480 人）

・適性検査及び調査書等による総合的な選考を経て入学する生徒 160 人

南高等学校

１学年５学級 200 人定員（３学年全体で 15 学級 600 人）

・附属中学校からの進学者 160 人

・高等学校の入学者選抜を経て入学する生徒 40 人

(5)　高等学校の課程、学科

全日制の課程普通科とする。

第２　南高等学校・附属中学校の教育方針

教育理念

知性・自主自立・創造

教育目標

(1)　学びへの飽くなき探求心を持つ人材の育成
(2)　自ら考え、自ら行動する力の育成
(3)　未来を切り拓く力の育成

目指す学校像

(1) ６年間の一貫教育で健全な心身をはぐくむ学校
(2) 質の高い学習により、高い学力を習得できる学校
(3) 生徒が互いに切磋琢磨し、常に活気に溢れている学校
(4) 国際社会で活躍するリーダーの育成を目指す学校

第３　教育課程等

１　教育課程編成の基本方針

(1)　豊かな人間性の育成

ア　主体性、創造性、リーダーシップを持って、たくましく生きる力を育てるとともに、協調性や思いやりを兼ね備えた人間を育てる。

イ　充実した学習活動で養われた豊かな知識と教養を基盤とし、さらに特別活動や部活動により徳性を磨くことで人格の完成を目指す。

ウ　中学校及び高等学校における教育活動全般に効果が生じるよう、計画的かつ継続的な６年間のキャリア教育を展開する。

具体的な取組例

(1)　規律ある生活習慣の確立を目指す生活指導

礼儀正しい態度、集団生活でのマナー、服装等、きめ細やかな生活指導を行い、生活習慣を確立させ、協調性、規範意識などを育成する。

(2)　探究型「総合的な学習の時間」の実施

市立高校で行う「地球規模の問題について教科横断的な探究的学習」を附属中学校から６年間で行うことにより、課題設定・課題解決能力を伸長させるとともに、自ら探究する力を育てる。

(3)　体験型宿泊行事の実施

ア　附属中学校で実施する英語宿泊研修等で英語によるコミュニケーションを体験し、英語に親しむ態度と積極的に他者とかかわる態度を育てる。

イ　南高等学校において酪農体験型修学旅行（北海道ファームステイ）等を実施することにより、生命や生き方を敏感に感じ取る豊かな感受性と、目標を達成するための行動力を育てる。

(4)　活気ある特別活動

生徒会活動や学校行事を中学生と高校生が合同で運営することによって、協調性や人を思いやる気持ちを育てる。また、他の中高一貫教育校や海外の学校との交流等を通して、多様な価値観を認める態度を育てる。

(5)　充実した部活動

６年間の継続した部活動を通し、中学生と高校生が合同で活動することによって、多様な人間関係の中で、物事を幅広く捉える力や集団におけるリーダー性を育てる。

(6)　特別講座の開講

生徒自らの 10 年後、20 年後、30 年後の将来を考えさせるため、南高等学校の卒業生などの話を聞かせる「ようこそ！先輩」講座などを実施する。

(2)　「高い学力」の習得

ア　豊富な学習量により生徒一人ひとりの学習効果の向上を図り、全教科で高い学力の習得を目指す。

イ　６年間を**「養成期」、「伸長期」、「発展期」**の３区分に分け、入学直後から大学進学を意識した教育を実践する。

＊高等学校の入学者選抜を経て入学する生徒は、学習進度を高等学校２年生までに附属中学校からの進学者と揃える。

具体的な取組例

(1)　国公立大学受験に対応する教育課程の編成

ア　大学入試センター試験に対応するため、南高等学校で学習する内容の一部を附属中学校へ移行するなどの工夫により、多くの国公立大学が課している５教科７科目を南高等学校２年生までに学習させる。

イ　南高等学校２、３年時には、各大学が実施する個別学力検査等に対応するため、自由選択科目を設置する。

(2)　国語・数学・英語の授業時数増

ア　附属中学校

３年間で、授業時数を増加する。

(ｱ) 国語：140 時間増（１時間は 50 分、以下同じ）

(ｲ) 数学：140 時間増

(ｳ) 英語：105 時間増

イ　南高等学校

学習指導要領で定められた標準単位数より単位数を増加する。

(ｱ) 国語総合：１単位増（１単位は 50 分授業×35 回、以下同じ）

(ｲ) コミュニケーション英語Ⅰ：２単位増

(3)　増加した授業時数の活用

ア　国語

豊富な言語活動を行い、将来に必要とされる国語力を身に付けさせる。また、伝統的な日本文化に中学校段階から触れさせるため、南高等学校における現代文及び古典の学習内容の一部を移行し実施する。

イ　数学

中学校と高等学校の６年間分の数学を体系的な配列で再構成された教材を使用する。また、学習内容に関する問題演習を繰り返すことにより、更なる学力の定着を図る。

ウ　英語

英語によるコミュニケーション能力の伸長を図る。また、英検２級の全員取得、英検準１級やＴＯＥＩＣの高得点の取得を目指す。

(4)　土曜日、長期休業日の活用

土曜日や長期休業日に進路実現に向けた補習授業や習熟度に応じた特別講座等を実施する。

２　教育課程

(1)　計画的・継続的な教育

発達段階に応じて多様な場面を設定し、また、テーマに応じて多様な人材を活用することで効果的な教育を行う。

<table>
<tr><th colspan="2">学年</th><th>豊かな人間性の育成</th><th>「高い学力」の習得</th></tr>
<tr><td>附属中学一年</td><td rowspan="2">養成期</td><td rowspan="2">○協調性と規範意識の育成
学校生活へのきめ細かな支援
○自己探求
自分史づくりとグループワーク
○コミュニケーション力育成
体験型宿泊行事の実施
○他者理解
ボランティア活動とグループワーク</td><td>○標準授業時数より増加
国語：35 時間増
数学：35 時間増
英語：35 時間増</td></tr>
<tr><td>附属中学二年</td><td>○標準授業時数より増加
国語：35 時間増
数学：70 時間増
英語：35 時間増
○確認テスト実施
○高等学校の学習内容一部移行</td></tr>
<tr><td>附属中学三年</td><td rowspan="2">伸長期</td><td rowspan="2">○社会の理解Ⅰ
職場訪問とグループワーク
○文化の理解
日本文化の理解と異文化の理解
○社会の理解Ⅱ
インターンシップとグループワーク
○「ようこそ！先輩」
南高等学校卒業生による講演</td><td>○標準授業時数より増加
国語：70 時間増
数学：35 時間増
英語：35 時間増
○高等学校の学習内容一部移行</td></tr>
<tr><td>高校一年</td><td>○学習指導要領で定められた標準単位数より単位数を増加
国　語　総　合：４単位→５単位
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅰ：３単位→５単位
○確認テスト実施
○資格取得
英検２級・ＴＯＥＩＣ　等</td></tr>
<tr><td>高校二年</td><td rowspan="2">発展期</td><td rowspan="2">○課題研究
自発的な学習とフィールドワーク
○生命の尊さや生き方を学ぶ
体験型宿泊行事の実施
○リーダーとしての意識の確立
学校行事、特別活動、部活動の活用
○横浜市民としての意識の確立
未来の横浜のために尽力する力を育成</td><td>○選択科目の設置
・現代文読解　・数学研究
・化学　・英語表現Ⅰ　など
○問題演習の繰り返しで実践力強化
○資格取得
英検準１級　等</td></tr>
<tr><td>高校三年</td><td>○選択科目の設置
・国語表現　・政治・経済
・数学Ⅲ　・物理
・英語長文読解応用　など
○進路実現を目指した特別講座の実施</td></tr>
</table>

(2)　教育課程表

ア　附属中学１年生から高校１年生までの４年間、国語・数学・英語の授業を毎日行う。

イ　中学校の標準授業時数は１週間に 29 時間ですが、附属中学校では、33 時間の授業を行う。

ウ　高等学校においても１週間に 30 時間の授業を行なっているところが一般的ですが、南高等学校では、33 時間の授業を行う。

<table>
<tr><th rowspan="2">授業時数</th><th colspan="2">養成期</th><th colspan="2">伸長期</th><th colspan="2">発展期</th><th rowspan="2">授業時数</th></tr>
<tr><th>附属中学
１年生</th><th>附属中学
２年生</th><th>附属中学
３年生</th><th>高校
１年生</th><th>高校
２年生</th><th>高校
３年生</th></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="4">国語
35 時間増</td><td rowspan="4">国語
35 時間増</td><td rowspan="4">国語
70 時間増</td><td rowspan="4">国語総合
1 単位増
(35 時間増)</td><td rowspan="2">現代文Ｂ</td><td rowspan="2">現代文Ｂ</td><td>1</td></tr>
<tr><td>2</td></tr>
<tr><td>3</td><td rowspan="2">古典Ｂ</td><td rowspan="2">古典Ｂ</td><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td><td rowspan="4">社会</td><td rowspan="4">社会</td><td rowspan="4">社会</td><td rowspan="2">日本史Ａ</td><td rowspan="4">世界史Ｂ</td><td rowspan="2">体育</td><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td>6</td></tr>
<tr><td>7</td><td rowspan="3">ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
英語Ⅲ</td><td>7</td></tr>
<tr><td>8</td><td rowspan="2">現代社会</td><td>8</td></tr>
<tr><td>9</td><td rowspan="4">数学
35 時間増</td><td rowspan="4">数学
70 時間増</td><td rowspan="4">数学
35 時間増</td><td rowspan="3">数学Ⅱ</td><td>9</td></tr>
<tr><td>10</td><td rowspan="2">数学Ⅰ</td><td>10</td></tr>
<tr><td>11</td><td rowspan="11">自由選択

【国公立】
文系
or
理系

【私立】
文系
or
理系</td><td>11</td></tr>
<tr><td>12</td><td>12</td></tr>
<tr><td>13</td><td rowspan="2">数学Ａ</td><td>数学Ｂ</td><td>13</td></tr>
<tr><td>14</td><td rowspan="3">理科</td><td rowspan="3">理科</td><td rowspan="4">理科</td><td>14</td></tr>
<tr><td>15</td><td rowspan="2">化学基礎</td><td>物理基礎
地学基礎</td><td>15</td></tr>
<tr><td>16</td><td>16</td></tr>
<tr><td>17</td><td>音楽</td><td rowspan="2">生物基礎</td><td rowspan="3">体育</td><td>17</td></tr>
<tr><td>18</td><td>音楽・美術</td><td>音楽</td><td>18</td></tr>
<tr><td>19</td><td>美術</td><td>美術</td><td>音楽</td><td rowspan="2">体育</td><td>19</td></tr>
<tr><td>20</td><td rowspan="3">保健体育</td><td rowspan="3">保健体育</td><td>美術</td><td>保健</td><td>20</td></tr>
<tr><td>21</td><td rowspan="3">保健体育</td><td>保健</td><td rowspan="3">ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
英語Ⅱ</td><td>21</td></tr>
<tr><td>22</td><td rowspan="2">芸術</td><td>22</td></tr>
<tr><td>23</td><td rowspan="2">技術・家庭</td><td rowspan="2">技術・家庭</td><td>23</td></tr>
<tr><td>24</td><td>技術・家庭</td><td rowspan="3">ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
英語Ⅰ
2 単位増
(70 時間増)</td><td>24</td></tr>
<tr><td>25</td><td rowspan="4">英語
35 時間増</td><td rowspan="4">英語
35 時間増</td><td rowspan="4">英語
35 時間増</td><td>家庭基礎</td><td>25</td></tr>
<tr><td>26</td><td rowspan="3">自由選択
文系
or
理系</td><td>26</td></tr>
<tr><td>27</td><td>27</td></tr>
<tr><td>28</td><td>28</td></tr>
<tr><td>29</td><td>家庭基礎</td><td>29</td></tr>
<tr><td>30</td><td>道徳</td><td>道徳</td><td>道徳</td><td rowspan="2">社会と情報</td><td>30</td></tr>
<tr><td>31</td><td>総合的な
学習の時間</td><td>総合的な
学習の時間</td><td>総合的な
学習の時間</td><td>31</td></tr>
<tr><td>32</td><td>総合的な学習の時間</td><td>総合的な学習の時間</td><td>総合的な学習の時間</td><td>総合的な学習の時間</td><td>総合的な学習の時間</td><td>32</td></tr>
<tr><td>33</td><td>学級活動</td><td>学級活動</td><td>学級活動</td><td>ＬＨＲ</td><td>ＬＨＲ</td><td>ＬＨＲ</td><td>33</td></tr>
</table>

(3)　自由選択科目

南高等学校の２、３年時には、各大学が実施する個別学力検査等に対応するため、自由選択科目を設置する。

高校２年生

科目名	単位数
＊現代文読解	2
＊数学研究	2
化学	2
生物	2
＊スポーツⅡ	2
音楽Ⅱ	2
美術Ⅱ	2
書道Ⅱ	2
英語表現Ⅰ	2
英語会話	2
＊英語研究	2
＊家庭生活実習	2
情報と科学	2

高校３年生

科目名	単位数
国語表現	3
＊現代評論研究	2
＊古典研究	2
日本史Ｂ	4
地理Ｂ	4
倫理	2
政治・経済	2
＊世界史発展	2
＊日本史発展	2
数学Ⅲ	5
＊数学総合	2
＊数学発展	2
物理	4
化学	2 or 4
生物	2 or 4
地学	4
＊物理探究	2
＊化学応用	2
＊生物応用	2
＊スポーツⅡ	2
音楽Ⅲ	2
美術Ⅲ	2
書道Ⅲ	2
英語表現Ⅰ	2
英語会話	2
＊英語長文読解基礎	2
＊英語長文読解応用	2
＊フードデザイン	2
＊家庭看護・福祉と保育	2
＊マルチメディア表現	2
＊教育基礎	2

＊印は、学校設定科目を表します。

＊教育課程表や自由選択科目は、今後の詳細な検討によって、変更する場合があります。

第４　附属中学校の入学者の決定

１　志願資格

小学校等を卒業又は修了する見込みの者で、保護者とともに県内に住所を有する者とする。

２　学区

横浜市内全域とする。ただし、学区外入学許可限度数は、別に定める割合の範囲内とする。

３　選考方法

適性検査及び調査書等により、横浜市立中高一貫教育校で学習をするために求められる資質、能力などの基礎的な力を測るとともに、学ぶ意欲や基礎的な学習の状況を見て総合的に選考し、入学者を決定する。

(1)　適性検査（例）

適性検査Ⅰ：文章や資料等を読み取り、課題を理解し、解決に向けて筋道を立てて考え、表現する力を測る。

適性検査Ⅱ：数理的な問題や自然科学的な問題等を理解し、解決に向けて筋道を立てて考え、表現する力を測る。

(2)　調査書

今後の学習につながる基礎的学習の状況を見る。

４　入学定員

附属中学校

１学年 160 人（４学級）の募集とする。

※　南高等学校の入学定員

南高等学校

平成 23 年度は１学年 320 人（８学級）、平成 24 年度から平成 26 年度までの３年間は１学年 200 人（５学級）程度の募集を想定し、平成 27 年度以降は１学年 40 人（１学級）の募集とする。

【参　考】

入学定員

年　度	南高等学校	附属中学校
平成 23 年度	320 人（８学級） 現在、中学校３年生	―
平成 24 年度	200 人（５学級） 現在、中学校２年生	160 人（４学級） 現在、小学校５年生
平成 25 年度	200 人（５学級） 現在、中学校１年生	160 人（４学級） 現在、小学校４年生
平成 26 年度	200 人（５学級） 現在、小学校６年生	160 人（４学級） 現在、小学校３年生
平成 27 年度	40 人（１学級） 現在、小学校５年生	160 人（４学級） 現在、小学校２年生

学級数の推移

年　度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
南高等学校	３年	8	8	8	5	5	5	5
	２年	8	8	5	5	5	5	5
	１年	8	5	5	5	４＋１	４＋１	４＋１
附属中学校	３年	―	―	―	4	4	4	4
	２年	―	―	4	4	4	4	4
	１年	―	4	4	4	4	4	4
総学級数		２４	２５	２６	２７	２７	２７	２７

第５　施設・設備の整備、人事配置

１　施設・設備の整備の考え方

施設・設備については、教育理念や教育課程の検討結果を踏まえ、特色を生かしながら６年間一体的に中高一貫教育を効果的に展開することを可能とする施設を、現行施設の活用を基本としながら整備していく。

２　施設の現況

(1)　横浜市立南高等学校の敷地総面積は 54,361 ㎡、教室棟総面積は 14,227 ㎡、校庭総面積は 10,240 ㎡である。教室棟は平成３年に全面改築されたものであり、全面改築後 19 年を経ているが、基本的には良好な状態である。

(2)　交通機関としては、京浜急行「上大岡駅」バス 10 分（京浜急行バス１路線、神奈川中央交通バス２路線）、横浜市営地下鉄ブルーライン「上永谷駅」徒歩 15 分の場所にある。

３　施設の基本計画

(1)　施設設備方針

中高一貫教育校への改編に伴う施設設備については、横浜市立南高等学校の校舎を現状のまま利用することを基本としつつ、充実した学習指導を行うにあたり、教育課程を展開していく上で必要となる木工・金工室等、学習環境の改善のための改修等の整備を行う必要がある。

(2)　主な施設・設備の整備内容

ア　金工・木工室の整備

実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を育てるため、改修により金工・木工室を整備する必要がある。

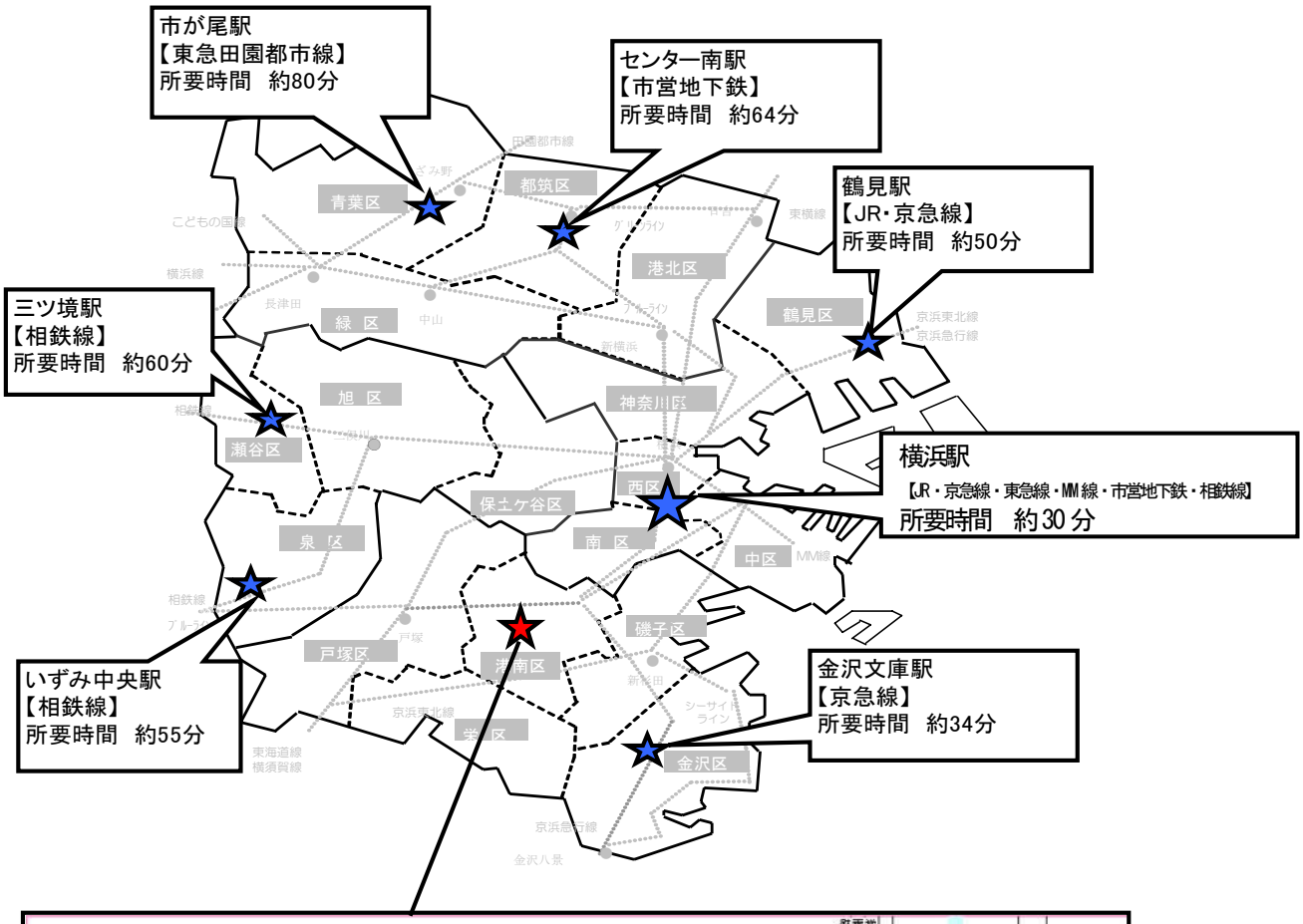
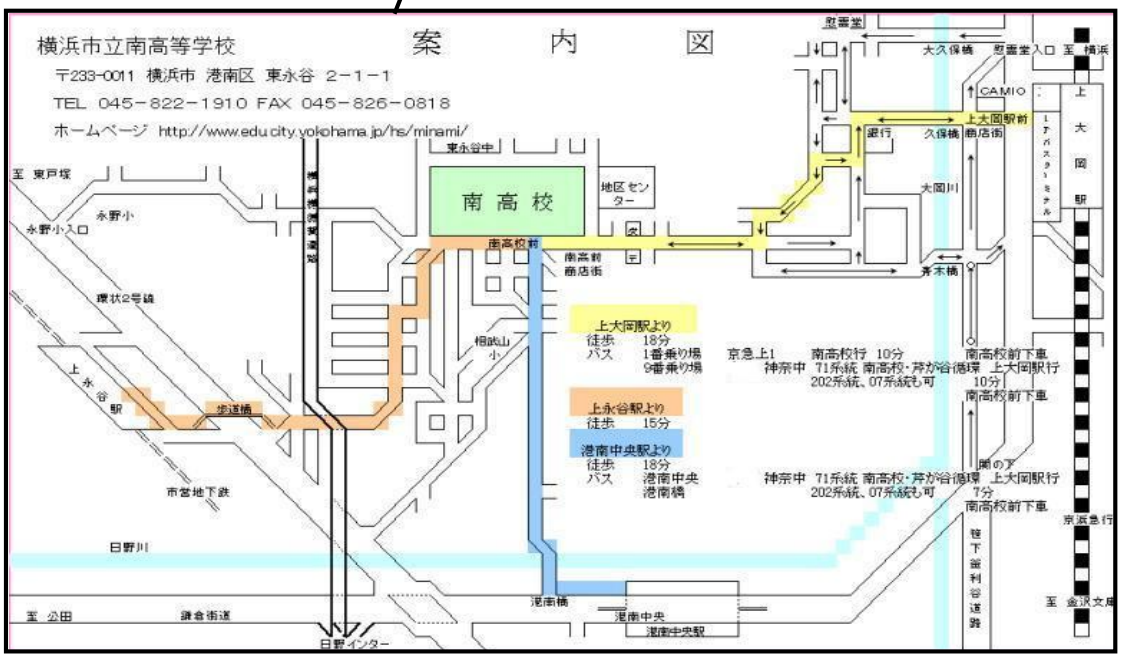
イ　職員室の設置

南高等学校では、現在、職員室は教科ごとに設置されており、市立中学校のように職員が一堂に会する職員室を設置していない。併設型の中高一貫教育校設置にあたり、附属中学校の職員室を中・高一体のものとするか、附属中学校のみのものとするか、あるいは、附属中学校教員も教科ごとの職員室を使用するかなど、教員の生徒に対するかかわり方なども踏まえ、整備検討を行う必要がある。

４　人事配置・教職員研修の考え方

(1) 教職員の配置について、法定数に準じて、平成 24 年度の開設年度から段階的に配置していく予定である。

(2) 教職員の資質や意欲を高めるため、計画的・継続的な研修を実施していく予定である。

【参　考】

市内周辺駅から南高校までの所要時間（目安）